

取扱書

OWNERS MANUAL

CORONA *MARK II*

營業車 / LPG車



はじめに

CORONA **MARK II 1700**

この取扱書は、トヨペット・コロナ・マークⅡ・1700
営業用車（ガソリン車）およびトヨペット・コロナ・マ
ークⅡ・1700 L P G車の取扱い方法のみを説明してあ
ります。

したがって、本取扱書以外の取扱い方法は、別冊のトヨ
ペット・コロナ・マークⅡの取扱書をご参照ください。

目次

CORONA *MARK II 1700*

エンジンの始動（ガソリン車）	5
L P G車について	6
仕業点検	8
エンジンの始動	9
不凍液	10
駐車	10
燃料の補給	11
定期点検	12
スペア・タイヤ	13
故障の処置と点検法	14
仕様とサービス・データ	15

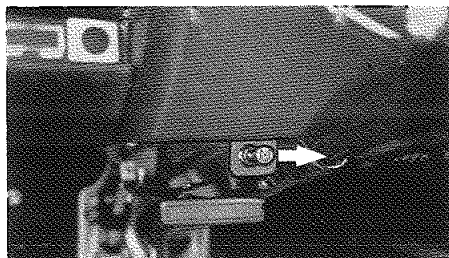
ガソリン車について

CORONA *MARK II 1700*



■エンジンの始動

営業用ガソリン車のキャブレターには、手動式チョークが付いています。エンジンが冷えているとき、このチョークボタンを操作することによりエンジンの始動を容易にしております。



引き出すとチョークができます。

次の要領でエンジンを始動してください。

外気温が+5℃以上のときはチョーク・ボタンを引かずにアクセル・ペダルをわずかに踏んでエンジンをかけます。

外気温が+5℃以下のときは次の要領でエンジンをかけてください。

1. アクセル・ペダルを次の要領で踏み込む。

外 気 温	アクセル・ペダルを踏む回数
+5℃～-10℃	いっぱい1回
-10℃～-15℃	いっぱい2～3回

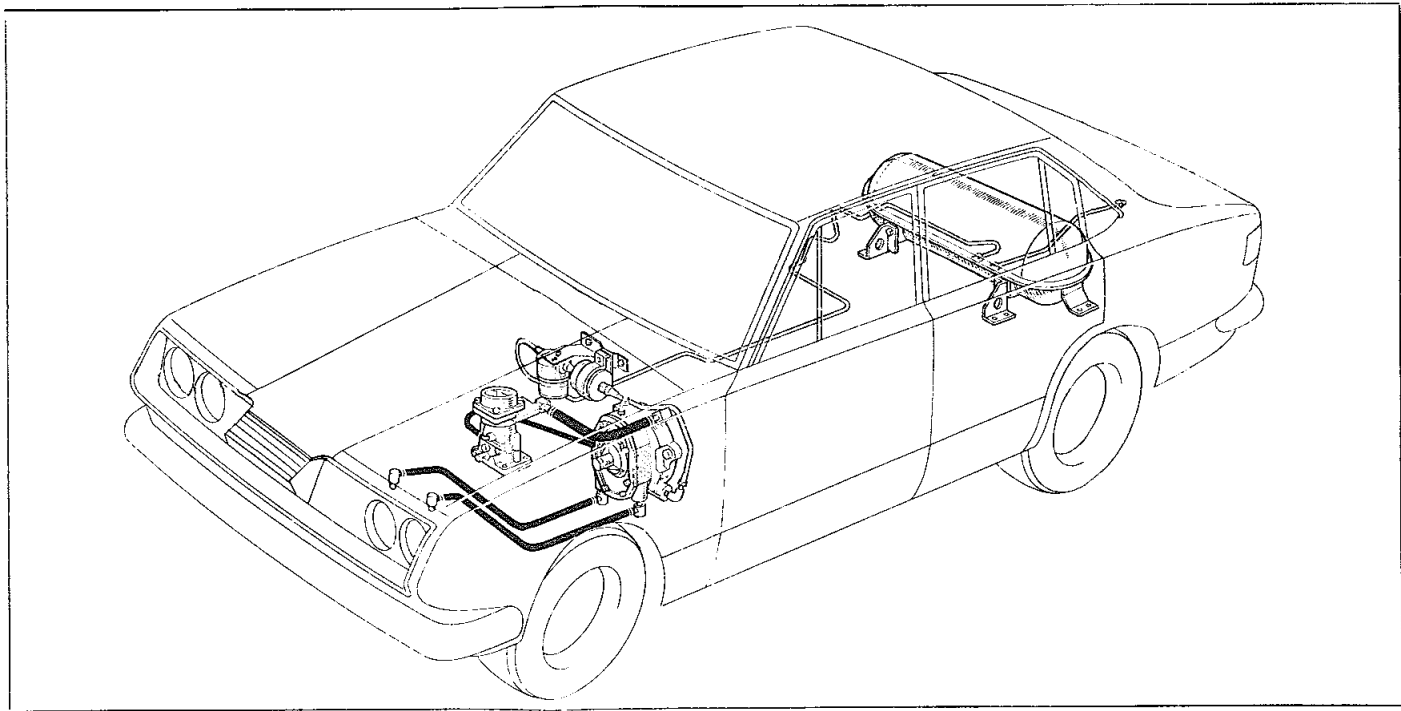
2. チョーク・ボタンをいっぱい引く。
 3. アクセル・ペダルを踏まないでエンジンをかける。
 4. 始動後暖気を充分行なってください。エンジンの暖気にしたがってエンストしない程度にチョーク・ボタンを徐々に戻してください。
 5. 暖気後はチョーク・ボタンは完全にもどしてください。
- 引いたまま走行しますと燃費増大のもとになります。

《注 意》

1. スターター・モーターは10秒以上連続使用しないでください。10秒以内で始動しない場合、30秒位休みバッテリーの回復を待ってから再始動してください。
2. 始動後、エンジンの回転が円滑に持続しないときは、アクセル・ペダルを軽く踏んで、回転が円滑になるように助けてやってください。

LPG車について

CORONA *MARK II 1700*



■ 仕業点検

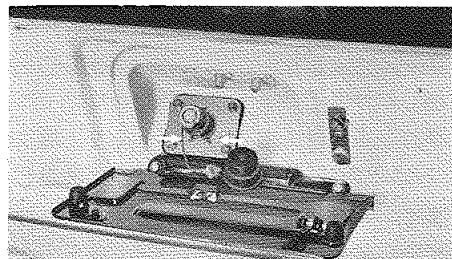
一般の仕業点検（お出かけ前の点検）に下記の項目も含めて必ず点検してください。

1. ガス漏れの点検

ガス漏れの点検はパイプ等の接続部に石鹼液（中性洗剤液）を筆で塗布してガス漏れのない事を確認してください。

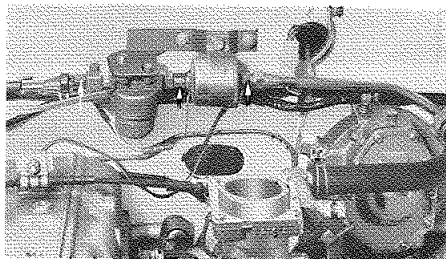
絶対に火気を使用しないでください。

- ・エンジン・スイッチをONにする。
- ・LPGスイッチをONにする。
- ・トランク・ルーム内の液取出しバルブを開く。



フューエル・タンクの充填バルブおよび取出しバルブ裏側のガス漏れ点検はバルブ裏側からガス注入口までビニールホー

スで繋がれていますのでその部分に石鹼液を塗って確認してください。



エンジン・ルーム内のパイプつき目に、石鹼液を塗って漏れのないことを確認します。

2. ボンベ固定台のゆるみの有無を点検してください。
3. 高圧パイプの損傷の有無を調べてください。

4. 電気配線の被覆および接点が損傷していないか点検してください。

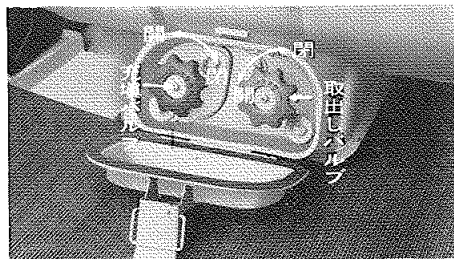
ソレノイド・バルブ部

フューエル・センサー・ゲージ部

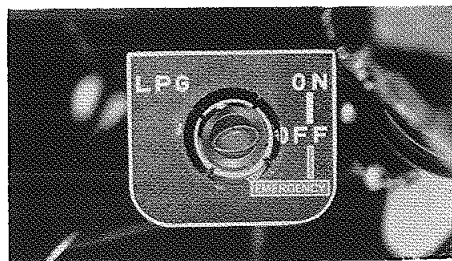
LPGスイッチ部

■エンジンの始動

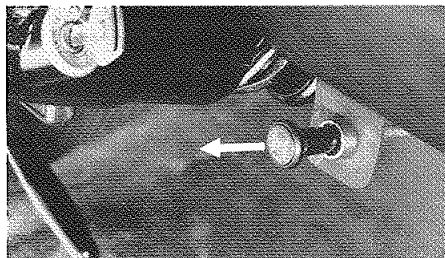
エンジンの始動は次の順序で行ってください。



1. トランク・ルーム内の液取出しバルブをいっぱい開いてください。

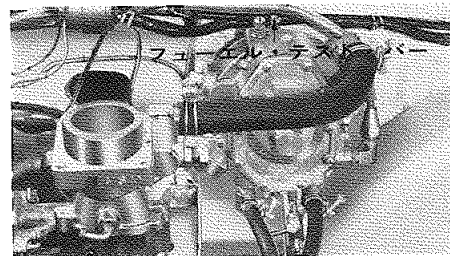


LPGスイッチをONにして、アクセル・ペダルをわずかに踏みながら始動します。



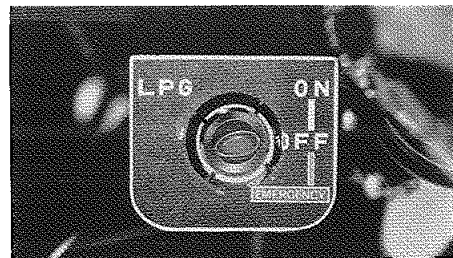
エンジンがかかりにくいときは、スロットル・ボタンをいっぱい引出して始動してください。

もし、LPガスの出かたが悪くてエンジンがかかりにくいときはレギュレーターのフューエル・テスト・バーを2～3回後側に動かしてからかけなおしてください。



＜注 意＞

1. LPGスイッチは常時始動および走行中はONの位置で使用してください。スイッチをONの位置にしてもスターターを回しているとき、また走行中以外はソレノイド・スイッチが働かないようにして安全性を高めています。



押しがけなどスターターを回さないでエンジンをかけるときはスイッチを下側に(EMERGENCY)押しえながら始動します。始動後はすみやかにスイッチをONにしてください。

2. アクセル・ペダルをいっぱい踏み込まないでください。いっぱい踏むと燃料が薄くなり、エンジンがかかりにくくな

ります。

3. 一度エンジン始動に失敗したらしばらく休んでから再始動してください。

LPGガスはレギュレーター内で気化しますが、気化するときに多量の熱を奪いますので、連続してエンジンを始動すると、レギュレーターの温水が凍結する恐れがあります。

4. ガスが濃すぎてエンジンがかからないときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏んでエンジンをかけるか、LPGスイッチをOFFにして少しスターターをまわしてから再びエンジンをかけてください。

5. エンジンがかかったら、しばらく暖気運転を行い、エンジンが暖まってから走行してください。

《注 意》

エンジン始動直後、レーシング等を行いますとレギュレーターが凍結することがありますのでご注意ください。

■不凍液

寒冷時にはレギュレーターが過冷し易いので、外気温が+10℃以下になったときは、エンジンの冷却水に必ず不凍液を使用して下さい。

キャッスル不凍液を使用した場合は次表のとおりです。

外気温 ℃	+5	0	-5	-10	-15	-20	-25	-30
混入量 ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4	3.7	3.9

■駐 車

駐車のときは

1. LPGスイッチをOFFにする。
2. エンジンが止る。
3. エンジン・キーをOFFにしてキーを抜く。

長く駐車するときは

1. ボンベの取出しバルブを閉じる。
2. スイッチをOFFにする。
3. エンジン・キーをOFFにしてキーを抜く。

《注 意》

1. 夏期の直射日光下の駐車はなるべくさけてください。
2. 火気については、ガソリン車以上にご注意ください。

■燃料の補給

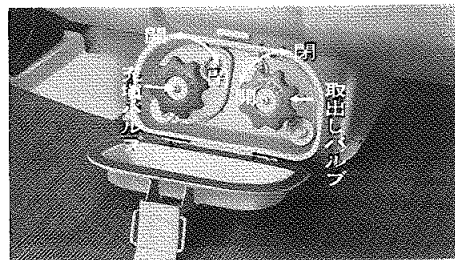
LPGは「高圧ガス取締法」の適用を受けていますので、各ポンベには（高圧ガス容器証明書）がついています。

走行中およびLPガス充填時には必ずこの証明書を携行してください。

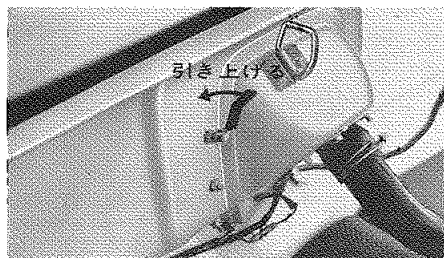
燃料の補給は、LPGスタンドの係員におまかせください。

補給は次の順序で行なってください。

- LPGスイッチをOFFにする。
- エンジン・キーをOFFにする。
- トランク内ポンベの液取出しバルブをしめる。
- 充填バルブをゆるめる。



○トランク内のバック・パネル中央のレバーを上へ引き上げて、ロアバックフィニッシュセンタパネルのロックを外す。



○ロアバックフィニッシュセンタパネルを倒し、クイック・カップリング・キャップを外し、LPガス充填ガンを確実にセットします。

○フロート式液面計を見ながら充填を行ない、約70%に達したらのぞき窓式液面計に目を移し、液面計中央の線になるように補給する。

○液充填バルブをしめ、トランクを締める。

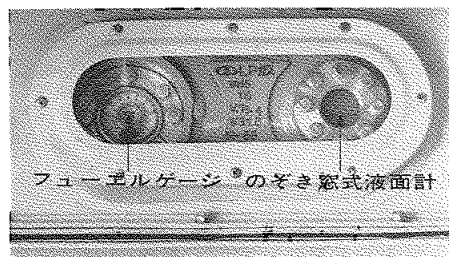
○LPガス充填ガンを外す。

○クイック・カップリング・キャップを

はめる。

○ロアバックフィニッシュセンタパネルを押しえつけてロックする。

●フューエル・ゲージの読み方



外周の黒数字は、ポンベ内に入った燃料の容量を%で表わします。

例えば針が80を指示しているときは、ポンベの80%まで燃料が入っていることを示します。

●満量指示の読み方

赤線のグラフで表わしてあります。

赤字と赤の太線は周囲の温度を示しています。

○円弧状の赤の細線は、燃料の成分を示し、外側がブタン分100%の線で、中央がブタン分とプロパン分が50%ずつの線で、内側はプロパン分100%の線です。

○したがって、使用燃料の割合によって決定する細線と、そのときの周囲温度線の交った位置が満量です。
例えば燃料成分がブタン50%、プロパン50%で、周囲の温度が30℃ならば、ボンベ容量の86%が満量です。

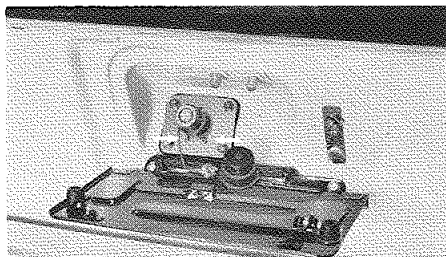
＜注 意＞

燃料はブタン成分の多い、純度の高いものを使用してください。

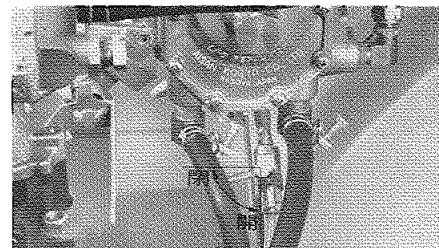
■定期点検

1 週間または1000 km 走行毎に次の項目を点検してください。

1. 配線の損傷および取付けのゆるみを点検してください。
2. ガス漏れの点検を行なってください。（石鹼液または中性洗剤液で行なってください。絶対に火気を使用しないでください）
3. コンテナ式にしたタンクの密ぺいが完全かを調べてください。
4. ボンベ固定台、支持バンドのゆるみ損傷の有無を点検してください。
5. レギュレーター等の器具に異常がないか点検してください。



6. LPガス補給口部のガス漏れ検知孔がふさがっていないか点検してください。
7. 電気配線のゆるみ、損傷がないか点検してください。（エンジン・ルーム内およびフューエル・センサー・ゲージ部）
8. レギュレーター下部のドレーン・コックをプライヤー等で開き、タール状の物質を出してください。



ドレーン・コックはレギュレータの暖まっているときに開いてください。

＜注 意＞

1. 作業点検、定期点検等で、異常を発見し、分解、修理を行なうときは、配管内のガスを完全に抜き取ってから作業をしてください。
2. 組付後は必ずガス漏れ点検を実施してください。

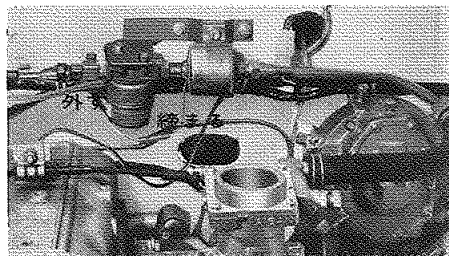
■エヤ・クリーナーの清掃

エヤ・クリーナーのつまりはエンジン性能に悪影響を及ぼしますので走行杆数にかかわらず、埃の多い道路を走行したあとは時々清掃してください。

清掃は 5000km 走行毎に行なってください。

又、エヤ・クリーナー・エレメントを交換するときは、LPG専用のものをご使用ください。

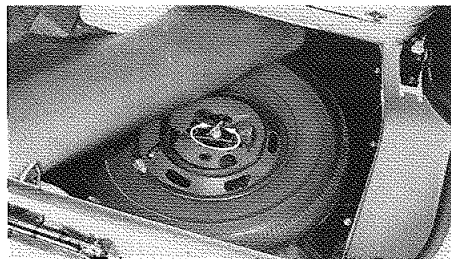
LPG フィルターの清掃



LPG フィルターの清掃は次の順序で行なってください。

1. ボンベの液取出しバルブを締める。
 2. エンジンを始動して配管内のガスを燃焼させる。
 3. エンジン・スイッチ、ソレノイド・スイッチをOFFにする。
 4. フィルターのハンドリング・ボールナットを手でゆるめ、取りはずす。
 5. フィルター内のフィルター・エレメントを取出し、ゴミやタール分などの不純物がつまっている場合には、ガソリンで洗滌する。
 6. 洗滌後組付ける。
 7. 組付け後、ガス漏れの有無を点検する。
- 少なくとも 3 カ月に一回は実施してください。

■スペア・タイヤ



スペア・タイヤはトランクルームのフロアに取付けてあります。蝶ねじを左にまわしてはらずし、スペア・タイヤをはずします。

■故障の処置と点検法

LPG装置に関係した故障とその処置についてしめします。その他の故障については別冊のトヨペット・コロナ・マークII取扱書の「故障と応急手当て」の項を参照してください。完全な修理は、もよりのコロナ取扱店にお申し付けください。

1. 燃料のもれ

- 配管部の締付け不良……………再締付け
- Oリング不良……………交換
- ソレノイド・バルブの当り不良……点検・修理
- レギュレーター作動不良……………修理

2. エンジンの始動不良

- LPGガスがレギュレーターに來ない。
(フューエル・テスト・バーを作動して点検する)
ボンベが空になっている……………充填
- ボンベの液取り出しバルブが締っている……開弁
- LPGフィルターのつまり……………清掃
- 配管のつまり……………清掃
- ソレノイド・バルブ作動不良……………修理

- LPGガスがレギュレーターまで來ている。
パワー・スクリュ調整不良……………調整
- 燃料混合気が薄い……………フューエル・テスト・バーを2～3回作動させる。
- アイドル・アジャスト・スクリュ調整不良……調整
- LPGガスの吸込みすぎ……………アクセル・ペダルをいっぱい踏み込み、始動させる。
- レギュレーターのドレーン・コックが開いている……閉じる。

3. エンジン不調

- キャブレーターの故障
キャブレーターにガスが多く行き過ぎる……パワー・アジャスト・スクリュ調整
- レギュレーターの故障
レギュレーター一次圧が高すぎる……ダイヤフラム、バルブ・シートの点検交換
- レギュレーター二次バルブよりのLPGガス漏れ…点検交換
- アイドル・アジャスト・スクリュ調整不良……調整
- マニホールドからガス漏れ……………修理
- エヤ・クリーナのつまり……………清掃

4. レギュレーターの凍結

レギュレーターのウォーター・ジヤケットの漏れ……修理
 ラジエーターの水が不足……補給
 ウォーター・ポンプ不良……修理
 ファン・ベルトゆるみ……調整
 エンジンが暖まらないうちに凍結……不凍液を入れるラジエーターに覆いをつける。

仕様

■名 称	コ罗纳・マーク II 1700 (営業用)	コ罗纳・マーク II 1700 (LPG)
■車 両 仕 様		
型 式	RT61-T	RT61-TP
車 両 重 量 (kg)	970	1,025
乗 車 定 員 (人)	5	5
長 さ (m)	4.295	←
幅 (m)	1.605	←
高 さ (m)	1.405	←
ホイール・ベース(m)	2.510	←
トレッド (m) 前	1.330	←
後	1.320	←
■エ ン ジ ン		
型 式	6R	←
内 径×行 程 (mm)	86×73.5	←
総 排 気 量 (ℓ)	1.707	←
圧 縮 比	8.5	←
最高出力 (PS/r.p.m.)	95/5,500	83/5,000
最大トルク (m·kg/r.p.m.)	14.0/3,800	12.8/2,600

点 火 順 序	1-3-4-2	←
バ ッ テ リ ー	12V 35~40 A.H <20H.R>	←
■ク ラ ッ チ		
型 式	乾燥単板 ダイヤフラム	←
■トランスミッション		
型 式	前進3段・オール シンクロメッシュ 後退1段	←
ギ ヤ・シ フ ト	コラム	←
変 速 比 第1速	3.337	←
第2速	1.653	←
第3速	1.000	←
後 退	4.449	←
■ディファレンシャル		
減 速 比	4.111	←
■タイヤ・サイズ		
前 後 輪 共	5.60-13-6PR	
	6.45-13-4PR	←
	6.45-13-6PR	
	6.45S13-4PR	<オプション>

■フロント・アライメント

ト ー イン (mm)	6~8	←
キ ャ ン バ ー	1° 20'	←
キ ャ ス タ ー	10'	←
■ステアリング		
型 式	ボール・リサーキュ レーティング	←
歯 車 比	19.5	←
ハ ン ド ル 径 (m)	0.395	←

サービズ・データ

■各部調整値

ファン・ベルトのたわみ (ベルト中央部を10kgで引いて)	8~13 mm	
スパーク・プラグ 熱 価	W-20EP (日本電装)	
	BP-6ES (NGK)	
火花隙間	0.8 mm	
ディストリビューター・ ポイント・ギャップ	0.45 mm	
弁 隙 間 吸気弁	0.18 mm (冷間)	
排気弁	0.33 mm (冷間)	
イグニッション・ タイミング上死点前	10°/600 r.p.m. (ガソリン車)	15°/600 r.p.m. (LPG車)
アイドルリング回転数	600 r.p.m.	
タイヤ空気圧 (kg/cm ²)	前後輪 1.8	
ブレーキ・ペダル踏み残り	55 mm 以上	
クラッチ・ペダル遊び	25~45 mm	
ステアリング・ホイール遊び	50mm以下	

■各部給油容量

エンジン・オイル	
オイル・パン	4.1 ℓ
オイル・フィルター	0.8 ℓ
	LPG車の場合 エンジン・オイルは
	MS-DMクラス以上 (キャッスル・

モーター・オイル MS-DM など)
又は LPG 専用オイル (キャッスル・
モーター・オイル・LPG等) をご使
用ください。

フロント・サスペンション

- ボール・ジョイント
(アッパー、ロワー)
- サスペンション・インナー・
シャフト

グリースはキャッスル・シャシー・
グリス No.1 をご使用ください。
注脂は6ヶ月ごと、または 10000 km
ごとに行なってください。

トランスミッション
(ギヤ・オイル) 1.7 ℓ

ディファレンシャル
(ハイポイド・ギヤ・オイル) 1.0 ℓ

冷 却 水 7.4 ℓ

フューエル・タンク 52 ℓ (LPG車 73 ℓ→31 kg)

●印刷=昭和46年2月15日

非売品

●発行=昭和46年2月20日

●編集 = トヨタ自動車販売株式会社・サービス部
愛知県西春日井郡春日村 〒452

●発行 = トヨタ自動車販売株式会社・販売拡張部
東京都千代田区九段南2-3-18 〒102



安全はトヨタの願い

信頼のマーク

TOYOTA



トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ自動車販売株式会社

1

18941 - 1 ①

無断複製禁止